

8 地域資源の保全管理

平地農業地域

【地区概要】

1

ちはな

茶花環境保全向上支援隊

よろんちょう

(鹿児島県与論町)

- 本地区は、主としてさとうきびや野菜類が生産されています。高齢化が進む中、今後とも農業振興を図るためには、農地や農道・水路等の農業用施設、農村環境を地域共同活動により適切に保全管理することが必要である。
- 本町は台風の常襲地帯であり、台風の進路によっては関連施設に多大な影響を及ぼすことから、周辺地権者や非農家の住民と協力して、農地や農道等の保全管理を目的として農業用排水路等の泥上げ清掃活動を行っている。

・取組面積：79.3ha（畑）

・資源量：開水路 1.3km, 農道 3.4km
パイプライン 1.7km
ため池2箇所

・主な構成員：農業者, 非農業者
子ども会育成会, 老人クラブ
婦人会

・交付金：約 244万円(R2)

農地維持支払 159万円

資源向上支払 85万円(共同)

活動開始前の状況や課題

- 農業従事者の高齢化等により、個々の農業者において、重機等を利用した施設の維持管理ができない状況である。
- 台風や大雨等の災害時には、側溝等に堆積した土砂等の影響により、水路が冠水し機能しなくなる。それに起因し、農地・農用地・農道等に多大な影響がある。また、それに伴い洪水も発生し、下流部にある商業地域に、多大な影響を及ぼしている。



取組内容

- 排水路や沈砂池については、重機を使用し、堆積した土木等の除去・泥上げ等を実施した。
- 土砂の流出した影響により、側溝として機能していない箇所及び農用地法面については、重機を使用し整形補修を実施した。



取組の効果

- 現在のところ、幸いにも大雨や台風等の災害がなかったため、側溝への土砂の堆積や沈砂池の機能不全、道路の冠水はみられていない
- 作業を行ったことにより、側溝がある事が判明し、かつ、除草に伴う幅員回復(1m程度回復)により、車両が安心して走行できるようになった。また、近隣の小学生等が安心して通学・通行できるようになった。
- 今後の課題として、農地と側溝の間の法面の土砂の崩れが多いので、今後の防止策を検討する必要がある。





付帯施設周辺の草刈り



簡易的なコンクリート打設

Step1 (~H21)

環境保全向上支援隊 結成前

- 高齢化が進み、農業施設の維持・保全が困難になりつつあった。
- 災害等の規模によっては、個人が対応できない場合、農業施設の保全を放置していた。

Step2 (H21~H25)

環境保全向上支援隊 結成

- H21より農地・水・環境保全向上対策に取り組む。
- 農業施設の維持管理の他、子ども会育成会・老人クラブ等の各団体と連携し、花壇に花苗等の植栽の実施

Step3 (H26~)

農業施設の維持管理に 対する取組の強化

- H26より多面的機能支払交付金事業となったことをうけ、従来より行っている子ども会等の植栽等は継続する。
- 農業関連施設の維持管理についても取組を強化

災害の発生

平成30年6月
台風6号を起因とした
大雨の発生
それに伴う冠水



除去後の沈舎地



水路の草刈り



沈舎地の堆積物除去



側溝の泥上げ

将来に向けて

- 農業施設の維持管理においては、行政機関と連携を取りつつ行うこととし、また、作業の実施については、多くの人材を要することから、農業地権者だけでなく、周辺の居住者も巻き込みながら、活動をする必要がある。

Step5

応急復旧の実施

- 水路等(側溝・沈砂池等)の機能回復の為に、水路・側溝・沈砂池の泥上げ及び草刈り等を実施

Step4 (H30)

異常気象時の対応

- 通年、台風等の常襲地帯であるため、暴風に伴う災害対策はある程度理解はあったものの、大雨に対する対策は講じておらず、水路等の機能不全により、洪水が発生し、道路が冠水した。
- そのため、異常気象事後の調査を実施し、緊急的に行う事業箇所を取りまとめを実施